

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月28日
【事業年度】	第131期(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)
【会社名】	株式会社 大木
【英訳名】	OHKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 松井 秀夫
【本店の所在の場所】	東京都文京区音羽二丁目1番4号
【電話番号】	(03)3947 局 2232 番(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役業務本部長 中村 茂晴
【最寄りの連絡場所】	東京都文京区音羽二丁目1番4号
【電話番号】	(03)3947 局 2232 番(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役業務本部長 中村 茂晴
【縦覧に供する場所】	株式会社 大木 大阪支社 (大阪市城東区諏訪三丁目7番25号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 最近 5 連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第127期	第128期	第129期	第130期	第131期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (百万円)	129,635	142,448	151,141	155,941	168,102
経常利益 (百万円)	664	1,050	1,652	1,210	1,267
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	98	144	945	564	612
包括利益 (百万円)	—	—	1,848	1,109	1,625
純資産額 (百万円)	5,137	4,942	6,699	7,680	9,198
総資産額 (百万円)	46,987	51,170	55,807	60,086	67,466
1 株当たり純資産額 (円)	416.67	408.58	554.96	636.87	760.80
1 株当たり当期純利益 金額又は当期純損失金 額() (円)	8.19	12.04	78.70	47.01	51.04
潜在株式調整後 1 株当 たり当期純利益金額 (円)	2 —	3 —	2 —	2 —	2 —
自己資本比率 (%)	10.66	9.59	11.94	12.72	13.54
自己資本利益率 (%)	1.87	2.92	16.34	7.89	7.30
株価収益率 (倍)	53.72	—	4.41	8.72	9.03
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	365	1,419	1,159	2,192	435
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	66	80	243	42	920
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	15	2,099	1,150	814	461
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	1,072	1,670	1,434	2,855	1,909
従業員数 (外、平均臨時 雇用人員) (名)	451 (858)	434 (894)	461 (889)	459 (838)	518 (833)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、1 株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(2) 提出会社の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第127期	第128期	第129期	第130期	第131期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (百万円)	126,702	139,736	148,895	153,951	165,708
経常利益 (百万円)	736	876	1,304	858	1,074
当期純利益 (百万円)	79	157	636	376	464
資本金 (百万円)	1,751	1,751	1,751	1,751	1,751
発行済株式総数 (株)	12,572,100	12,572,100	12,572,100	12,572,100	12,572,100
純資産額 (百万円)	5,064	5,266	6,715	7,496	8,805
総資産額 (百万円)	43,969	48,439	53,345	57,310	64,224
1 株当たり純資産額 (円)	421.50	438.46	559.17	624.46	733.56
1 株当たり配当額 (円)	7.00	7.00	10.00	10.00	10.00
(内 1 株当たり 中間配当額) (円)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
1 株当たり 当期純利益金額 (円)	6.64	13.09	53.01	31.34	38.68
潜在株式調整後 1 株当たり 当期純利益金額 (円)	2 —	2 —	2 —	2 —	2 —
自己資本比率 (%)	11.52	10.87	12.59	13.08	13.71
自己資本利益率 (%)	1.50	3.05	10.63	5.30	5.70
株価収益率 (倍)	66.27	27.96	6.55	13.08	11.92
配当性向 (%)	105.42	53.48	18.86	31.91	25.85
従業員数 (外、平均臨時 雇用人員) (名)	300 (735)	293 (777)	304 (772)	308 (727)	319 (738)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

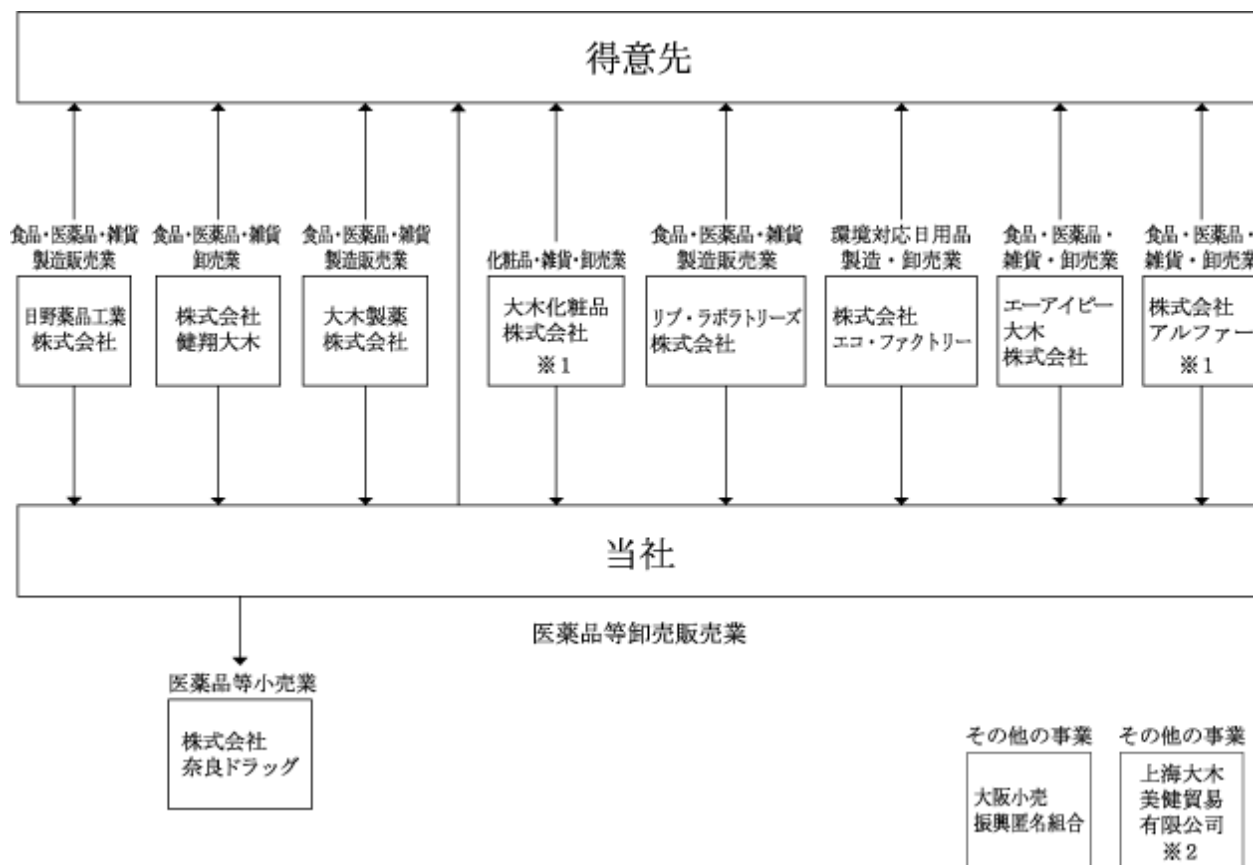
2 【沿革】

大正元年10月	東京神田に商号を応用製薬株式会社として資本金10万円をもって設立。 なお、当社の前身は、万治元年(西暦1658年)江戸両国に創業した家庭薬製造販売業「大木五蔵圓本舗」にさかのぼる。同本舗は明治29年大木合名会社と改組され、昭和20年当社に吸収合併されている。
大正9年5月	東京都文京区音羽に音羽工場開設。
昭和14年1月	大阪市東区に大阪支店開設。
昭和18年4月	大木製薬株式会社に商号変更。
昭和20年5月	母体である大木合名会社を吸収合併。
昭和39年12月	埼玉県上尾市に上尾工場開設。
昭和40年1月	音羽工場を改修、増築し、本社機構を神田鍛冶町より移転。
昭和40年7月	愛媛県松山市に松山営業所開設。
昭和45年5月	薬品製造部門を大木製薬株式会社(新設・埼玉県上尾市)に、冷蔵部門を大木冷蔵株式会社(青森県八戸市)に、それぞれ営業譲渡し、当社(大木製薬株式会社)は大衆薬卸販売専業となる。
昭和45年6月	大木浜薬株式会社(横浜市)を吸収合併。同時に横浜店開設。
昭和45年10月	合理化のため大阪支店、大阪北部店、松山営業所に属する営業を応用製薬株式会社(昭和45年7月新設・大阪市)に営業譲渡。
昭和47年6月	東泉薬品株式会社(東京都千代田区)を吸収合併。
昭和49年1月	商号を株式会社大木と改称、本社を東京都文京区に移転。
昭和51年7月	株式会社平野隆盛堂(名古屋市)を吸収合併。
昭和52年1月	サンキ株式会社(大阪市)を吸収合併。
昭和54年5月	株式を日本証券業協会(東京地区協会)に店頭登録。
昭和57年2月	株式会社牧絵一貫堂(群馬県高崎市)を吸収合併。
昭和58年6月	医薬品、健康食品等の製造販売を目的とするマナケミカル株式会社(現商号・リブ・ラボラトリーズ株式会社(現・連結子会社))を設立。
昭和60年2月	埼玉県上尾市に埼玉物流センター開設。
平成2年7月	大阪府南河内郡に大阪物流センター開設。
平成4年5月	神奈川県藤沢市に新神奈川物流センター(現・神奈川物流センター)開設。
平成11年9月	環境保全商品等の販売業を目的とする株式会社エコ・ファクトリー(現・連結子会社)を設立。
平成16年8月	福岡県福岡市に九州物流センター(現・九州サブセンター)開設。
平成16年12月	埼玉県鴻巣市に新東京物流センター開設。 株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成17年6月	愛媛県西条市に中四国物流センター(現・四国物流センター)開設。
平成17年10月	食品・医薬品・雑貨卸売業を目的とする岡内大木株式会社を子会社化。
平成17年12月	食品・医薬品・雑貨製造販売業を目的とする大木製薬株式会社を子会社化(現・連結子会社)。
平成18年7月	北海道札幌市に北日本支店開設。
平成19年1月	化粧品・雑貨・卸売業を目的とする大分化粧品株式会社(現商号・大木化粧品株式会社)を関連会社化。
平成19年10月	食品・医薬品・雑貨卸売業を目的とするエーアイピー大木株式会社を子会社化(現・連結子会社)。
平成20年7月	医薬品等小売業を目的とする株式会社ヤクショー(現商号・株式会社奈良ドラッグ)を子会社化(現・連結子会社)。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、「大阪証券取引所(JASDAQ市場)(現・大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード))」に上場。
平成22年12月	食品・医薬品・雑貨卸売業を目的とする株式会社健翔大木(現・連結子会社)を設立。
平成23年1月	連結子会社岡内大木株式会社(西条市)を吸収合併。
平成23年8月	上海大木美健貿易有限公司(中国・上海)を設立。
平成23年11月	沖縄県糸満市に沖縄物流センターを開設。
平成24年4月	食品・医薬品・雑貨製造販売業を目的とする日野薬品工業株式会社を子会社化(現・連結子会社)。

3 【事業の内容】

当社グループは、主として当社及び連結子会社 8 社、持分法適用関連会社 2 社で構成されております。また、各社の主な事業内容は、医薬品等の製造・販売業であり、単一のセグメントであります。各社は主として、当社及び当社取引先を対象に事業を営んでおります。

事業の系統図は次の通りであります。



(注) 無印は連結子会社、 1 は持分法適用関連会社、 2 は非連結子会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) ㈱健翔大木	広島県廿日市市	10	医薬品等製造・ 販売業	100.00	—	当社取扱商品の販売 役員の兼任及び債務保証あり
大木製薬㈱	東京都千代田区	50	医薬品等製造・ 販売業	70.76	—	当社取扱商品の製造販売 資金の貸付あり 役員の兼任あり
エーアイピー大木㈱	福岡県福岡市	25	医薬品等製造・ 販売業	100.00	—	当社取扱商品の販売 役員の兼任あり
㈱奈良ドラッグ	大阪府大阪市	10	医薬品等製造・ 販売業	100.00	—	当社取扱商品の販売 資金の貸付あり 役員の兼任及び債務保証あり
日野薬品工業㈱	滋賀県蒲生郡	50	医薬品等製造・ 販売業	66.00 〔15.00〕	—	当社取扱商品の製造販売 資金の貸付あり 役員の兼任及び債務保証あり
リブ・ラボラトリーズ㈱	東京都文京区	100	医薬品等製造・ 販売業	99.05	—	当社取扱商品の製造販売 資金の貸付あり 役員の兼任あり
㈱エコ・ファクトリー	東京都文京区	10	医薬品等製造・ 販売業	100.00	—	環境保全商品の卸売販売 役員の兼任あり
大阪小売振興匿名組合	東京都中央区	140	医薬品等製造・ 販売業	71.43	—	—
(持分法適用関連会社) 2社	—	—	—	—	—	—

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の〔内書〕は間接所有であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成25年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
医薬品等製造・販売業	518 (833)

(注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
2 臨時雇用者数は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
3 臨時従業員は、アルバイト、パートタイマーのみであります。
4 前連結会計年度末に比べ従業員数が59名増加しておりますが、主として、平成24年4月12日付で、日野薬品工業株式会社を子会社化したことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

(平成25年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
319 (738)	41.0	13.8	5,344

セグメントの名称	従業員数(名)
医薬品等製造・販売業	319 (738)

(注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
2 臨時雇用者数は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
3 臨時従業員は、アルバイト、パートタイマーのみであります。
4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は大木労働組合と称し、昭和22年7月に結成され平成25年3月31日現在の組合員数は168名であり上部団体には加盟しておりません。

労使関係は結成以来相互信頼を基本姿勢として今日に至っており、特記すべき事項はありません。

なお、連結子会社については該当事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の復興関連需要等により、ゆるやかに持ち直す傾向は見られたものの、長引く欧州金融不安等により、厳しい状況で推移していましたが、昨年末の政権交代以降、経済政策への期待感から、円安や株価の上昇等、景気回復への兆しが見え始めております。

当社グループの主力商品の大衆薬につきましても、依然として荷動きの鈍化が続いており、苦戦をいたしました。しかしながら、当社グループは、高齢化の進展とともに美と健康に関するニーズを対象に、スキンケア群、健康維持摂取品群という大カテゴリーに継続して力を入れて頑張っており、加えて、昨年7月より、快適生活用品事業部を新たに立ち上げ、主として、単身・高齢世帯をターゲットとした品揃えの充実も推し進めて参りました。

また、広域化する有力ドラッグストアとの取引関係を引き続き強化し、同時に、異業態との取引の開拓・深化にも積極的に取り組んで参りました結果、売上の増加を実現する事が出来ました。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は168,102百万円（前年同期比7.8%増）、連結経常利益は1,267百万円（前年同期比4.7%増）、連結当期純利益は612百万円（前年同期比8.6%増）と増収増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、期首残高よりも945百万円減少し1,909百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因はつぎのとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、435百万円（前年同期比1,757百万円減）となりました。これは主として、売上債権と棚卸資産の増加が、仕入債務の増加を上回った事によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、920百万円（前年同期は42百万円の収入）となりました。これは主として、事業譲受に対する支払によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、461百万円（前年同期比352百万円減）となりました。これは主として、借入によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当連結会計年度の仕入実績は、次のとおりであります。

区分	金額（百万円）	前年同期比（％）
医薬品	72,319	+ 6.3
健康食品	17,539	+ 13.1
衛生医療・介護・オーラル用品	15,485	+ 9.3
ベビー用品	6,975	1.0
日用品・軽衣料	8,388	+ 14.7
菓子・食品	6,869	8.5
化粧品	20,437	+ 22.1
その他分類	4,280	+ 2.8
合計	152,294	+ 8.4

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 提出会社の仕入高が連結仕入高の大半を占める為、当該金額によっております。

(2) 販売実績

当連結会計年度の販売実績は、次のとおりであります。

区分	金額（百万円）	前年同期比（％）
医薬品	74,245	+ 3.2
健康食品	20,880	+ 10.5
衛生医療・介護・オーラル用品	17,591	+ 6.9
ベビー用品	7,364	2.8
日用品・軽衣料	9,590	+ 14.1
菓子・食品	7,224	9.5
化粧品	23,550	+ 22.7
その他分類	5,261	+ 50.1
合計	165,708	+ 7.6

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 提出会社の売上高が連結売上高の大半を占める為、当該金額によっております。

3 【対処すべき課題】

団塊の世代が65歳を超え日本の総人口が減少していく中で、65歳以上の高齢者割合はますます増加傾向にあります。美と健康に対する高齢者ニーズはそれぞれ様々であり一概には論じられないのみならず、高齢者自身も初めての高齢体験を迎えるものにて自身のニーズがわかっていないケースが散見されます。当社グループは、多種多様なニーズを発掘し、消費者の潜在需要を顕在化すべく機敏に対応してまいります。

また世帯構成数の変化も見逃せません。2030年には日本の総世帯のうち単身世帯や老夫婦のみ世帯が過半数を超えることが予想されています。「消費者の本当に求めるものは何か」を見つけ、新しいソリューションを提供していきたいと思っています。当社は「医薬品スタンディングの美と健康と快適な生活にウィングをもつ中間流通業を作り上げ、消費者満足の向上を通じて社会に貢献していくこと」を経営方針としていますが、高齢者需要と世帯数の変化に対応し、誰もが快適な生活を送れる様な商品を提案しながら新しいマーケットを作っていきたいと考えています。

また介護用品の店頭支援システムとして「ケア用品ドットコムシステム」のリリースを予定しています。介護用品を取り扱いたい展開スペースがない、介護関連商品のことがわからない小売店様向けに取扱品目の充実、商品情報の充実、在庫リスクの軽減、お客様の再来店の機会メイク、コミュニケーションの店頭支援ツールとして活用していただければと思っています。また介護用品供給のバックヤードを主とした中核ロジスティックセンターを埼玉県鴻巣市に建築中であります。

先般医薬品のネット販売解禁の判決がなされ、リアル店舗がネット販売に対してどう対応していくかが問題になってまいります。リアル店舗が潜在需要を喚起できる商品を多数取り揃え、かつ専門スタッフがキーワードをもってご案内できる様な店舗作りができる様、潜在需要開拓型商品の開発と供給をより推し進めてまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

（１）法的規制に係るリスク

当社グループは、各種の医薬品及びその関連商品を取り扱っておりますが、薬事法および関連法規等の規制により、営業拠点の開設および医薬品等の販売に際しては、各事業所が所轄の都道府県知事等により必要な許認可、登録等を受けることになっております。監督官庁の許認可等の状況により、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

（２）特有の商慣習に係るリスク

当社グループが所属している医薬品卸売業界においては、医薬品の販売数に応じて、医薬品メーカーから医薬品卸売業者に対して販売報奨金等が支払われます。この販売報奨金等は、医薬品メーカーと医薬品卸売業者の間で取り決められた販売数量や納入件数等を達成することによって支払われますが、今後、医薬品メーカーの営業戦略の変更により、販売報奨金制度が変更された場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループの主要な得意先である、大手量販ストアやドラッグチェーンが卸各社から徴収するものとして、物流負担金、いわゆるセンターフィーがあります。小売市場の競争の激化により、料率等が変更された場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) システム障害発生に係るリスク

当社グループの事業運営は、コンピュータシステムに多くを依拠しており、自然災害や事故の発生、コンピュータウィルスの侵入等によりシステム機能が停止した場合、システムの復旧に時間を要し、販売・物流に大きな支障を及ぼす可能性があります。

(4) 取引先の財務状況悪化に係るリスク

当社グループは、ドラッグストア・薬局を中心とする取引先に多額の売掛債権を有しており、リスクの最小化のために与信管理の徹底を図っておりますが、取引先の財務状況の悪化により売掛債権の回収が滞った場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 情報の漏洩に係るリスク

当社グループが保有する顧客情報や機密情報等の情報資産の保護については、外部への漏洩を防止するため管理体制を整備し、運用の徹底を図っておりますが、不測の事態により、これらの情報が漏洩した場合には、顧客の信用を失い、損害賠償請求や取引停止等により当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 訴訟に係るリスク

当社グループは、事業活動を行うにあたって、法令違反や他者の権利侵害を行わないよう、最大限の注意を払っておりますが、万が一、当社の事業活動の遂行に対して、損害賠償を求める訴訟が提起され、敗訴した場合、賠償額によっては業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 災害等発生に係るリスク

当社グループの医薬品等卸売事業において、物流機能が重要な役割を果たしておりますので、地震や台風等の自然災害に備えて危機管理体制やシステムのバックアップ体制を構築しておりますが、想定を超える大規模災害が発生した場合には、物流活動に重大な支障をきたし、販売機会の喪失のおそれがあり、また、復旧費用等の費用も増加するおそれがあるため、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 関連当事者取引

平成25年3月31日現在の関連当事者取引につきましては、第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 関連当事者情報 に記載のとおりであります。

5 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の分析

当連結会計年度において当社グループは、かねてより力を入れて参りましたプライベートブランド商品及びMD（マーチャンダイズ）商品の開発と供給、ならびに非価格競争のできる商流力アップに努めましたことにより、大衆薬卸業界におけるシェアをさらに強固なものとする事が出来ました。他方、収益面では、医薬品メーカーからの取引条件の見直し要請に加え、ドラッグストア業界の価格競争の激化を要因とする値下げ要求が一層厳しさを増し、かつセンターフィーも引き続き増加傾向が続きましたが、先述のMD商品等への取組みの他、物流関係を中心とする生産性の向上及び経費削減に継続して注力いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は168,102百万円（前年同期比7.8%増）、連結経常利益は1,267百万円（前年同期比4.7%増）、連結当期純利益は612百万円（前年同期比8.6%増）と増収増益となりました。

また、当連結会計年度末における資産は、前連結会計年度に比べ、受取手形及び売掛金が4,517百万円増加した事等により、結果として7,380百万円増加の67,466百万円となりました。また、負債は、支払手形及び買掛金が5,651百万円増加した事等により、5,862百万円増加し、58,268百万円となり、純資産は、その他有価証券評価差額金が995百万円増加した事等により、1,517百万円増加の9,198百万円となりました。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況 に記載のとおりであります。

なお、当社のキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	平成24年3月期	平成25年3月期
自己資本比率	12.7%	13.5%
時価ベースの自己資本比率	8.2%	8.2%
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	2.9年	13.8年
インタレスト・カバレッジ・レシオ	22.0倍	5.0倍

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株価時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

* いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

* キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フローを利用しております。有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

戦略的現状と見通し

社会全体の大きな流れとして、少子高齢化社会の進展とともに消費者の生活スタイルや健康に対する考え方が変化してきております。また、健康志向が一段と進み、未病、予防の為の健康食品への関心が

ますます強くなってきております。

他方、平成18年6月には、46年ぶりに「薬事法」が改正となり、平成21年6月1日から完全実施となっております。同改正薬事法が我々医薬品卸売業にとって極めて重大な影響を与えることは間違いありません。大衆薬を販売する業として、卸売販売業が始めて法制化されました。更には、大衆薬の三分類制度や登録販売者制度の問題もあります。これまで長期低下傾向を続けてきた大衆薬市場そのものにとってのインパクトも大きいものと予想されております。無論、ドラッグストアをはじめとする小売業もそのあり方を変えていかざるを得ません。

このような社会的変化・法的環境の激変の下、ドラッグストアや医薬品卸業者の生き残りをかけた再編淘汰も更に加速すると予想されます。同一業態間の連携強化、垣根を越えた合従連衡の動き、或いは、日雑卸業態と医薬品卸業態との結合、更には、総合商社の業界への関与の動きが加速してゆき、物流センター構築の動き、更には、小売業者とメーカーとの直取引の増大等の変化が益々加速しております。

当社はこうした激動の潮流と国内業界の将来を見据えて強固な営業基盤の確立を図るため、インフラとしてのコンプライアンス体制を堅持しつつ、広域化・業態化を進め、カテゴリーを拡大し、健康維持摂取品や基礎化粧品であるメディカルスキンケアを含む広範な商品調達力を備えてまいります。また、マーチャンダイジング商品の開発にも注力し、ユニークなビジネスモデルを持つオンリーワン卸の確立を目指してまいります。

上記のような業界動向に加え、当面の国内景気につきましては、景気回復への期待感が高まってはいるものの、依然として予断を許さない状況で推移するものと認識しております。

当社は、このような環境下、引き続き消費者満足を視座に据えた非価格競争力の一層の強化、広域化そして業態化を基本戦略とし、併せて、業務の効率化・合理化による経費の圧縮により、売上の拡大と利益率の維持に鋭意努力する所存であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は232百万円であり、そのうち主なものは、提出会社の物流センターの増強に関するものです。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は以下のとおりです。

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (東京都文京区)	医薬品等製造・販売業	統括業務施設及び販売設備	57	—	0 (1,421)	11	70	132 (40)
大阪支社 (大阪府大阪市城東区)	〃	販売設備	59	—	92 (958)	0	151	33 (1)
埼玉物流センター (埼玉県上尾市)	〃	商品倉庫及び物流設備	158	2	84 (6,297)	4	248	62 (40)
新東京物流センター (埼玉県鴻巣市)	〃	〃	282	—	413 (39,763)	3	700	0 (219)
神奈川物流センター (神奈川県藤沢市)	〃	〃	386	—	938 (2,938)	3	1,328	20 (98)
大阪物流センター (大阪府南河内郡)	〃	〃	99	0	473 (4,212)	2	575	0 (103)

- (注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
2 従業員数は期末日現在の就業人員であり、臨時雇用人員は()内に外数で記載しております。
3 帳簿価額のうち「その他」は主に工具、器具及び備品の合計であります。
4 現在休止中の主要な設備はありません。

(2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
大木製薬(株)	上尾工場 (埼玉県上尾市) 他1工場	医薬品等製造・販売業	生産設備	365	23	253 (12,553)	3	646	43 (34)

- (注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
2 従業員数は期末日現在の就業人員であり、臨時雇用人員は()内に外数で記載しております。
3 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品の合計であります。
4 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	45,256,400
計	45,256,400

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,572,100	12,572,100	大阪証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)	単元株式数は 100株であります。
計	12,572,100	12,572,100	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成17年9月6日(注)	1,258	12,572	357	1,751	356	1,475

(注) 第三者割当増資によるものであります。

発行価格 1株当たり 567円

資本組入額 1株当たり 284円

割当先 東邦薬品株式会社

(6) 【所有者別状況】

平成25年 3月31日現在

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	9	4	136	1	—	652	802	—
所有株式数 (単元)	—	13,587	376	69,736	164	—	41,664	125,527	19,400
所有株式数 の割合(%)	—	10.82	0.30	55.55	0.13	—	33.19	100	—

- (注) 1 自己株式は「個人その他」の欄に5,677単元、「単元未満株式の状況」欄に56株含めて記載しております。
2 「その他の法人」欄には、証券保管振替機構名義の株式が10単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
ロート製薬株式会社	大阪府大阪市生野区巽西 1 丁目 8 - 1	1,759	13.99
東邦ホールディングス株式会社	東京都世田谷区代沢 5 丁目 2 - 1	1,413	11.23
株式会社大木	東京都文京区音羽 2 丁目 1 - 4	567	4.51
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内 2 丁目 7 - 1	567	4.51
株式会社ツムラ	東京都港区赤坂 2 丁目17 - 11	529	4.21
第一三共ヘルスケア株式会社	東京都中央区日本橋 3 丁目14 - 10	510	4.05
田 中 貞 文	埼玉県さいたま市南区	412	3.27
松 井 秀 夫	埼玉県さいたま市浦和区	356	2.83
久光製薬株式会社	佐賀県鳥栖市田代大官町408	323	2.57
株式会社トクホン	東京都港区芝 2 丁目28 - 8	292	2.32
計	—	6,731	53.53

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年 3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 567,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,985,000	119,850	—
単元未満株式	普通株式 19,400	—	—
発行済株式総数	12,572,100	—	—
総株主の議決権	—	119,850	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権10個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式56株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年 3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社大木	東京都文京区音羽 2丁目1-4	567,700	—	567,700	4.51
計	—	567,700	—	567,700	4.51

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成25年6月5日)での決議状況 (取得期間平成25年6月5日～平成26年6月4日)	1,500,000	900,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	—	—
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	100	0
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	567,756	—	567,756	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最も重要な経営課題のひとつとして位置付け安定配当を継続することを基本とし、業績並びに今後の事業展開等を勘案して、配当を行う方針としております。また、当社の剰余金の配当については、期末配当を基本的な方針としております。決定機関は従来は株主総会でありましたが、平成20年6月20日開催の定時株主総会において、定款一部変更の件が承認決議されたことにより、「当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会決議によって定め、株主総会の決議によらないものとする。」旨定款に定めております。当事業年度末の配当金につきましては、前期同様1株につき10円の配当を実施することを決定いたしました。内部留保金は、経営体質の一層の充実と今後の事業展開に活用する予定であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年5月17日 取締役会決議	120	10

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第127期	第128期	第129期	第130期	第131期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	460	540	442	490	510
最低(円)	370	354	347	387	418

(注) 株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年 10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	3月
最高(円)	471	428	460	476	485	491
最低(円)	420	418	420	441	450	455

(注) 株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長兼社長	—	松 井 秀 夫	昭和17年 6 月28日生	昭和47年 8 月 " 51年12月 " 52年 7 月 " 53年12月 " 56年12月 " 57年 1 月 " 59年11月 " 60年12月 " 63年12月 平成 8 年12月 " 22年 6 月	当社入社 総務部長 大阪支社長 取締役就任 常務取締役就任 営業本部長 代表取締役常務取締役就任 代表取締役専務取締役就任 代表取締役副社長就任 代表取締役社長就任 代表取締役会長兼社長就任(現任)	(注) 4	356
代表取締役 副社長	—	松 井 秀 正	昭和49年 6 月10日生	平成11年 4 月 " 15年 4 月 " 17年 4 月 " 18年 6 月 " 18年 7 月 " 19年 7 月 " 21年 6 月 " 22年 6 月 " 22年 7 月	当社入社 システム部副部長 東京支店長 取締役就任 大阪支社長就任 経営企画室長兼社長室長 就任 専務取締役就任 代表取締役副社長就任(現任) 業務本部長兼社長室長就任	(注) 4	59
代表取締役 専務取締役	営業企画 本部本部長	宇 部 由 信	昭和38年10月16日生	昭和57年 4 月 平成 8 年 3 月 " 8 年12月 " 11年 4 月 " 12年 6 月 " 16年 6 月 " 18年 6 月 " 21年 6 月	当社入社 東京支店中央第一営業所販売課長 多摩支店長 営業企画本部部長兼営業本部副部 長 取締役営業企画本部本部長就任 (現任) 常務取締役就任 専務取締役就任 代表取締役専務取締役就任(現任)	(注) 4	19
代表取締役 専務取締役	営業統括 兼 大阪支社長	平 野 源 明	昭和29年11月15日生	昭和52年 4 月 平成 3 年 4 月 " 5 年 4 月 " 9 年10月 " 11年 1 月 " 11年 6 月 " 12年 4 月 " 16年 6 月 " 18年 4 月 " 18年 6 月 " 21年 2 月 " 21年 6 月 " 24年 7 月	当社入社 阪南第一営業所長 大阪支店営業部次長 大阪支店業態開発部部長 大阪支社長 取締役就任 営業本部副本部長兼大阪支社長 就任 常務取締役就任 営業本部本部長就任 代表取締役専務取締役就任 常務取締役就任 代表取締役専務取締役就任(現任) 営業統括兼大阪支社長就任(現任)	(注) 4	20
常務取締役	営業本部長	植 木 雅 昭	昭和33年 8 月21日生	昭和58年 4 月 平成 7 年10月 " 10年10月 " 12年 6 月 " 16年 6 月 " 17年10月 " 18年 6 月 " 21年 6 月 " 22年 6 月 " 22年 7 月 " 24年 7 月	当社入社 業態開発部次長 業態開発部長 執行役員就任 取締役就任 営業本部副本部長 執行役員就任 取締役執行役員就任 常務取締役就任(現任) 営業本部統括部長就任 営業本部長就任(現任)	(注) 4	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	業務本部長兼 経営企画室長 兼社長室長	中 村 茂 晴	昭和34年10月15日生	昭和57年4月 平成14年10月 " 19年7月 " 22年11月 " 22年11月 " 23年4月 " 23年6月	(株)三和銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行)入社 (株)UFJ銀行都島支店長 (株)三菱東京UFJ銀行法人コンプライアンス部 当社入社 当社経営企画室長 当社経営企画室長兼業務本部副本部長 当社取締役業務本部長兼経営企画室長兼社長室長就任(現任)	(注)4	0
取締役	営業本部 副本部長 兼 名古屋 支社長 兼 快適生活用品 事業部長	荒 山 周 久	昭和46年11月18日生	平成4年4月 " 13年5月 " 18年7月 " 20年7月 " 21年2月 " 21年7月 " 24年6月 " 24年7月	当社入社 当社大阪支社営業部第四チームマネージャー 大阪支店営業部長 名古屋支店副支店長 名古屋支店長 名古屋支社長 取締役就任(現任) 営業本部副本部長兼名古屋支社長兼快適生活用品事業部長(現任)	(注)4	1
取締役	—	川 上 眞 吾	昭和29年10月16日生	平成6年4月 " 13年4月 " 15年4月 " 17年4月 " 18年4月 " 19年6月 " 20年4月 " 21年6月 " 25年4月	(株)サン・ダイコー営業企画課長 同社フード事業部営業部長 同社管理本部副本部長 (株)リードヘルスケア取締役管理本部長 同社常務取締役営業本部長 同社代表取締役専務 同社代表取締役社長 当社取締役就任(現任) (株)サン・ダイコー代表取締役社長(現任) (株)リードヘルスケア取締役相談役(現任)	(注)4	—
監査役 (常勤)	—	山 崎 貞 夫	昭和11年7月3日生	昭和30年3月 " 57年1月 " 59年12月 " 61年3月 " 63年12月 平成8年12月 " 12年6月	当社入社 営業第一部長 取締役就任 大阪支社長 常務取締役就任 専務取締役就任 監査役就任(現任)	(注)5	58
監査役	—	池 上 弘	昭和11年3月10日生	昭和35年9月 " 47年4月 " 62年4月 平成7年4月 " 10年4月 " 11年3月 " 13年6月	埼玉県土木建築課入所 県庁舎建設事務所主任 教育局管理部財務課主幹 埼玉県副知事就任 道路公社理事長 同公社退職 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
監査役	—	白 石 篤 司	昭和17年7月28日生	昭和55年4月 平成12年4月 " 15年6月	弁護士登録 第二東京弁護士会副会長 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
計							526

- (注) 1 取締役川上眞吾は、社外取締役であります。
2 監査役池上弘と白石篤司は、社外監査役であります。
3 取締役松井秀夫と松井秀正とは二親等内の親族関係(親子)であります。
4 取締役の任期は平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5 監査役の任期は平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

1 コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレートガバナンスを企業行動の最重要課題と位置付けており、企業経営に関する監督機能を充実させ、コンプライアンス遵守の経営を徹底することが、企業価値の継続的な増大につながり、株主を始めとするステークホルダーに対する責任を誠実に果たすものと認識しております。

そのために、企業経営の効率性の向上、健全性の確保、透明性の向上の観点からコーポレートガバナンスの充実に取り組んでおります。

2 企業統治の体制並びに内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社の取締役会は社外取締役1名を含む取締役8名で構成されております。取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項の意思決定機関及び取締役の業務執行状況の監督機関として、取締役と監査役が出席して原則として毎月1回開催し、必要に応じて臨時に開催しております。

また、当社では、経営の意思決定・監督の機能と業務執行の機能を分離し、経営のスピード化と効率化を図ることを目的に執行役員制度を設けるとともに、経営戦略の共有化を図る会議体として、子会社の幹部を含む全幹部が出席する毎週1回の幹部会議及び毎月1回の経営会議を開催し、経営方針の確認、各部門の業務執行状況の把握、個別の問題点に関する協議等を行っております。

さらに、当社は監査役会制度を採用しており、監査役会は監査役3名で構成され、うち2名は社外監査役です。監査役会は毎月1回開催しているほか、必要に応じて臨時に開催しております。

また、監査役は取締役会並びに幹部会議及び経営会議に出席し、取締役の経営上の意思決定や業務執行の適法性及び妥当性を監督しております。

なお、取締役会及び監査役会を補佐し、またグループ会社の業務を管理・監督する機関として経営企画室（現在2名）と業務監査班（現在1名）を設置し、グループとしてのコーポレートガバナンスの充実を図っております。

以上のとおり、当社は経営の執行機能と監督機能を分離した制度を導入しており、現状の体制でコーポレートガバナンスは有効に機能しているものと判断しております。

内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況

当社は、法令や定款・諸規程の遵守及び企業倫理に基づく行動が企業活動に不可欠と考えており、これらを織り込んだ経営理念と倫理規程に関する定めとして、「行動規範」を制定しております。

従業員がこの「行動規範」を適切に理解したうえで、日常の業務で実践することが、経営の健全性及び透明性並びに業務の適正性及び効率性を確保するとともに、経営上のリスクを管理するために必要との認識の下に、下記の機関を設置し、内部統制システム及びリスク管理体制の整備・運用を行っております。

また、経営上の様々なリスクに適切に対応するために、社内諸規程やマニュアルを作成し、必要に応じて研修を実施するなどして従業員に対し周知徹底を図っております。

イ)内部統制委員会

財務報告の信頼性を確保するために、内部統制システム及びリスク管理体制の整備・運用を統轄する機関として、定期的に内部統制の実施状況を確認し、問題点については関係部署への指導を行うなどして内部統制の有効性の確保に努めております。

ロ)コンプライアンス委員会

コンプライアンス遵守を徹底するための統轄部署として、「行動規範」に係るガイドラインの作成・管理や従業員に対し周知徹底を図るための定期的な研修等を行っております。

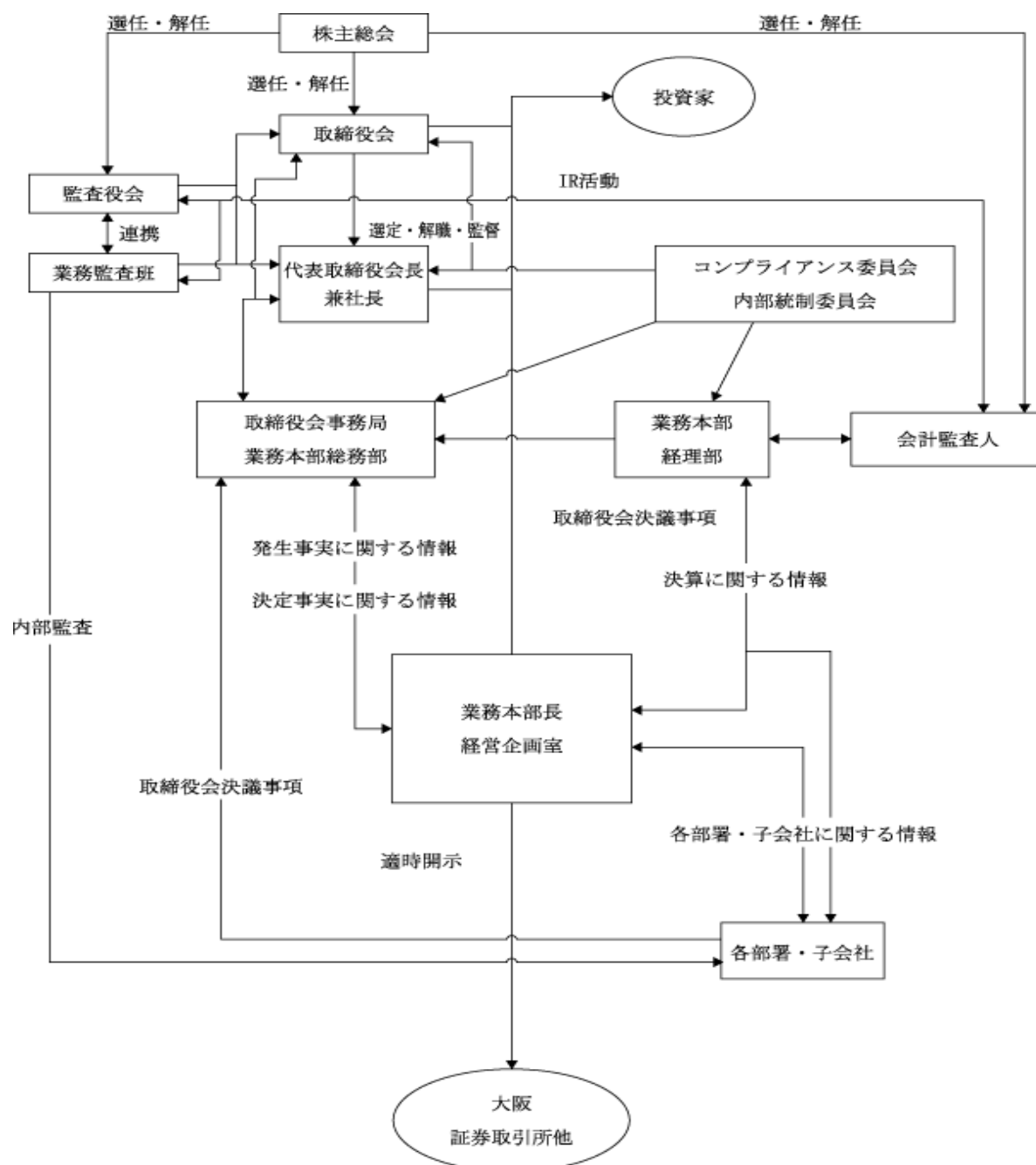
また、社内通報の窓口になっており、リスクの早期発見と迅速な対応を図っております。

八)業務監査班

組織上業務執行ラインから独立しており、監査役の指導の下で業務監査を所管し、業務の執行状況を適正性と効率性の状況から評価し、法令や諸規程の遵守と経営効率の向上を図っております。

監査で検出された問題点については、監査役と協議のうえ、改善等の必要な対応をとっております。

コーポレート・ガバナンス体制の模式図



3 内部監査及び監査役監査の実施状況

業務監査班は、当社及びグループ各社の業務全般を定期的に実地監査するほか、経費支出面から帳票等を書面監査し、監査結果を評価して社長、取締役会及び監査役に報告しております。

指摘事項については、取締役が関係部署に対し改善等の必要な対応を指示しております。

監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行の監査を実施しております。

また、業務監査班とはミーティングによる意見交換や実地監査に同行する等、相互に連携をとっております。

なお、監査役、業務監査班及び会計監査人は適宜打ち合わせを行い、効率的かつ効果的な監査の実施に努めております。

4 会計監査の状況

当社は、会計監査人として太陽ASG有限責任監査法人と監査契約を締結しております。

会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、監査法人名及び監査補助者の構成は以下の通りです。

公認会計士の氏名	所属する監査法人名	補助者の構成
指定有限責任社員 業務執行社員 大 木 智 博	太陽 A S G 有限責任監査法人	公認会計士 4 名 その他 10名
指定有限責任社員 業務執行社員 齋 藤 哲	同上	

(注) その他は、公認会計士試験合格者等であります。

5 社外取締役及び社外監査役の状況

当社の社外取締役は川上眞吾氏です。

川上眞吾氏は、当社の販売先及び仕入先であるとともに業務提携先でもある㈱リードヘルスケアの取締役であります。その他、特別な利害関係に該当する事項はありません。当社と同業態における経営者としての豊富な経験をもとに、的確なご提案やご指摘をいただいております。

また、当社の取締役が、㈱リードヘルスケアの社外取締役を兼務しております。

なお、川上氏は㈱サン・ダイコーの代表取締役社長でもあります。同社と当社との間には、記載すべき関係はありません。

当社は、社外監査役として池上弘氏と白石篤司氏の2名を選任しておりますが、いずれの社外監査役についても当社との人的関係、資本関係、取引関係その他の利害関係はありません。

池上弘氏は、官界で要職を勤めた豊富な経験をもとに、主に組織運営や法令遵守に関する専門的な見地からのご意見を経営に反映していただいております。

白石篤司氏は、長年にわたる法曹界での経験及び法務全般への高い見識をもとに、幅広い見地からのご意見を経営に反映していただいております。

また、社外取締役及び社外監査役の業務執行上の情報収集や関係部署への連絡等については、経営企画室及び業務本部がサポートする体制をとっております。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針等については、特に定めておりません。

6 役員の報酬等

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック・ オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	125	113	—	—	11	7
監査役 (社外監査役を除く。)	7	6	—	—	1	1
社外役員	3	2	—	—	0	3

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

- ・連結報酬等の総額が1億円以上に該当する役員がないため、記載しておりません。
- ・当社は役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

7 株式の保有状況

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 51銘柄

貸借対照表計上額の合計額 5,344百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
大塚ホールディングス(株)	832,000	2,038	取引先との 関係の強化
東邦ホールディングス(株)	372,000	546	
久光製薬(株)	75,263	295	
ロート製薬(株)	102,438	105	
(株)ツムラ	32,017	76	
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	124,000	51	
明治ホールディングス(株)	11,373	41	
不二ラテックス(株)	275,000	40	
(株)レディ薬局	228	34	
(株)フジ	17,408	32	
ケンコーコム(株)	730	29	
(株)みずほフィナンシャルグループ	204,130	27	
(株)セブン&アイ・ホールディングス	10,451	25	
武田薬品工業(株)	6,652	24	
(株)クリエイトSDホールディングス	9,495	19	
小林製薬(株)	4,471	18	
(株)ドン・キホーテ	6,000	18	
(株)キリン堂	31,575	17	
(株)ライフコーポレーション	11,612	15	
(株)CFSCコーポレーション	39,205	14	
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	48,000	12	
堺化学工業(株)	36,000	11	
(株)メディカルホールディングス	10,000	10	
スギホールディングス(株)	4,000	10	
(株)シード	32,000	8	
川本産業(株)	22,000	8	
(株)プラネット	8,000	6	
三菱ケミカルホールディングス(株)	13,852	6	
アルフレッサホールディングス(株)	1,170	4	
養命酒製造(株)	5,000	3	

(当事業年度)

特定投資株式

銘 柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
大塚ホールディングス(株)	832,000	2,745	取引先との 関係の強化
東邦ホールディングス(株)	372,000	809	
久光製薬(株)	77,228	396	
ケンコーコム(株)	730	270	
ロート製薬(株)	108,308	139	
(株)ツムラ	32,959	114	
(株)三菱UFJ フィナンシャル・グループ	124,000	69	
(株)レディ薬局	132,459	61	
明治ホールディングス(株)	11,373	49	
不二ラテックス(株)	275,000	41	
(株)みずほフィナンシャルグループ	204,130	40	
(株)クリエイトSDホールディングス	10,112	37	
川本産業(株)	79,300	37	
(株)セブン&アイ・ホールディングス	10,905	33	
武田薬品工業(株)	6,652	33	
(株)シード	32,000	32	
(株)フジ	18,213	32	
(株)ドン・キホーテ	6,000	25	
小林製薬(株)	5,399	24	
(株)キリン堂	34,399	23	
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	48,000	21	
(株)ライフコーポレーション	12,198	16	
(株)CFSコーポレーション	41,114	15	
スギホールディングス(株)	4,000	13	
(株)メディパルホールディングス	10,000	13	
堺化学工業(株)	36,000	10	
ウエルシアホールディングス(株)	2,232	10	
(株)プラネット	8,000	7	
三菱ケミカルホールディングス(株)	15,238	6	
アルフレッサホールディングス(株)	1,170	5	

8 その他

イ) 取締役の定数及び選任の決議要件

当社の取締役は11名以内とする旨定款で定めております。

また、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

ロ) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

ハ) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条2項の規定により、取締役会の決議をもって、市場取引等により自己株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己株式を取得することを目的とするものです。

二) 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条1項に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会決議によって定め、株主総会の決議によらないものとする旨定款に定めております。これは剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものです。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	32	—	32	—
連結子会社	—	—	—	—
計	32	—	32	—

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)及び事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。

- (1) 会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。
- (2) 顧問会計士と契約し、社内体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 2,916	1,999
受取手形及び売掛金	6 30,095	6 34,612
たな卸資産	4 9,989	4 11,587
繰延税金資産	690	572
未収入金	4,321	4,852
その他	390	137
貸倒引当金	93	243
流動資産合計	48,310	53,519
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 5,211	2 5,253
減価償却累計額	2,966	3,117
建物及び構築物（純額）	2,245	2,136
機械装置及び運搬具	202	236
減価償却累計額	182	202
機械装置及び運搬具（純額）	20	33
土地	2 3,339	2 3,448
その他	761	1,144
減価償却累計額	521	601
その他（純額）	240	543
有形固定資産合計	5,845	6,160
無形固定資産	193	245
投資その他の資産		
投資有価証券	2 3,860	2 5,504
関係会社株式	1 59	1 63
長期貸付金	52	41
関係会社長期貸付金	-	255
その他	2,070	2,180
貸倒引当金	305	504
投資その他の資産合計	5,736	7,541
固定資産合計	11,775	13,947
資産合計	60,086	67,466

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2, 6 41,393	2, 6 47,045
短期借入金	2 4,369	2 4,765
未払法人税等	377	265
賞与引当金	238	235
返品調整引当金	109	126
その他	1,812	1,911
流動負債合計	48,300	54,349
固定負債		
長期借入金	2 1,904	2 1,233
繰延税金負債	1,202	1,722
退職給付引当金	546	602
役員退職慰労引当金	165	155
その他	284	205
固定負債合計	4,104	3,918
負債合計	52,405	58,268
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,751	1,751
資本剰余金	1,484	1,484
利益剰余金	3,131	3,624
自己株式	266	266
株主資本合計	6,101	6,594
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,543	2,538
その他の包括利益累計額合計	1,543	2,538
少数株主持分	35	65
純資産合計	7,680	9,198
負債純資産合計	60,086	67,466

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高	155,941	168,102
売上原価	6 140,070	6 150,542
売上総利益	15,870	17,559
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	1,998	2,222
車両費	142	148
販売費	7,555	8,455
給料手当及び賞与	2,951	3,105
賞与引当金繰入額	221	223
退職給付費用	148	162
役員退職慰労引当金繰入額	19	16
福利厚生費	334	358
減価償却費	252	247
貸倒引当金繰入額	81	327
その他	4 1,513	4 1,590
販売費及び一般管理費合計	15,219	16,857
営業利益	651	702
営業外収益		
受取利息	19	23
受取配当金	77	83
仕入割引	269	219
情報手数料	213	229
受取家賃	38	30
その他	137	198
営業外収益合計	756	784
営業外費用		
支払利息	101	88
売上債権売却損	55	53
為替差損	0	-
貸倒引当金繰入額	0	35
その他	39	41
営業外費用合計	197	219
経常利益	1,210	1,267
特別利益		
固定資産売却益	3 46	-
負ののれん発生益	-	56
持分変動利益	-	13
投資有価証券売却益	0	19
特別利益合計	47	89

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
特別損失		
固定資産除却損	1 8	-
固定資産売却損	5 58	-
減損損失	2 47	2 2
投資有価証券評価損	66	-
出資金評価損	-	27
その他	1	-
特別損失合計	182	30
税金等調整前当期純利益	1,075	1,326
法人税、住民税及び事業税	732	602
法人税等調整額	228	95
法人税等合計	504	697
少数株主損益調整前当期純利益	570	629
少数株主利益	6	16
当期純利益	564	612

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	570	629
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	538	994
持分法適用会社に対する持分相当額	0	1
その他の包括利益合計	¹ 538	¹ 995
包括利益	1,109	1,625
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,102	1,607
少数株主に係る包括利益	6	17

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,751	1,751
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,751	1,751
資本剰余金		
当期首残高	1,484	1,484
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,484	1,484
利益剰余金		
当期首残高	2,687	3,131
当期変動額		
剰余金の配当	120	120
当期純利益	564	612
当期変動額合計	444	492
当期末残高	3,131	3,624
自己株式		
当期首残高	264	266
当期変動額		
自己株式の取得	2	0
当期変動額合計	2	0
当期末残高	266	266
株主資本合計		
当期首残高	5,659	6,101
当期変動額		
剰余金の配当	120	120
当期純利益	564	612
自己株式の取得	2	0
当期変動額合計	441	492
当期末残高	6,101	6,594

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,005	1,543
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	538	995
当期変動額合計	538	995
当期末残高	1,543	2,538
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,005	1,543
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	538	995
当期変動額合計	538	995
当期末残高	1,543	2,538
少数株主持分		
当期首残高	34	35
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	29
当期変動額合計	0	29
当期末残高	35	65
純資産合計		
当期首残高	6,699	7,680
当期変動額		
剰余金の配当	120	120
当期純利益	564	612
自己株式の取得	2	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	538	1,025
当期変動額合計	980	1,517
当期末残高	7,680	9,198

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,075	1,326
減価償却費	291	303
減損損失	47	2
持分法による投資損益（ は益 ）	2	4
のれん償却額	21	17
負ののれん償却額	-	56
固定資産除却損	6	-
固定資産売却損益（ は益 ）	11	-
投資有価証券評価損益（ は益 ）	66	-
出資金評価損	-	27
投資有価証券売却損益（ は益 ）	0	19
貸倒引当金の増減額（ は減少 ）	63	349
賞与引当金の増減額（ は減少 ）	4	3
退職給付引当金の増減額（ は減少 ）	30	55
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少 ）	19	10
返品調整引当金の増減額（ は減少 ）	15	16
受取利息及び受取配当金	97	107
支払利息	101	88
売上債権の増減額（ は増加 ）	2,571	4,352
たな卸資産の増減額（ は増加 ）	259	1,389
未収入金の増減額（ は増加 ）	7	530
仕入債務の増減額（ は減少 ）	3,467	5,445
未払金の増減額（ は減少 ）	123	181
未払消費税等の増減額（ は減少 ）	23	43
その他	140	182
小計	2,831	1,115
利息及び配当金の受取額	96	107
利息の支払額	99	87
法人税等の支払額	634	700
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,192	435

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	40	52
定期預金の払戻による収入	33	23
有形固定資産の取得による支出	62	232
有形固定資産の売却による収入	201	-
無形固定資産の取得による支出	25	133
投資有価証券の取得による支出	46	113
投資有価証券の売却による収入	1	25
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	0
関係会社株式の取得による支出	20	1
事業譲受による支出	-	448
貸付けによる支出	265	-
貸付金の回収による収入	266	11
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	42	920
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	117	170
ファイナンス・リース債務の返済による支出	96	92
長期借入れによる収入	600	1,108
長期借入金の返済による支出	1,061	1,553
社債の償還による支出	10	-
少数株主からの払込みによる収入	-	33
配当金の支払額	120	119
少数株主への配当金の支払額	6	6
自己株式の取得による支出	2	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	814	461
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	1,420	945
現金及び現金同等物の期首残高	1,434	2,855
現金及び現金同等物の期末残高	2,855	1,909

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 8 社

株健翔大木

大木製薬株

エーアイピー大木株

株奈良ドラッグ

日野薬品工業株

リブ・ラボラトリーズ株

株エコ・ファクトリー

大阪小売振興匿名組合

このうち、日野薬品工業株については、当連結会計年度において株式を取得した事により、連結の範囲に含めることとしました。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社

上海大木美健貿易有限公司

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の関連会社数

2 社

主要な会社等の名称

大木化粧品株

株アルファー

(3) 持分法を適用していない非連結子会社、関連会社

主要な会社等の名称

上海大木美健貿易有限公司

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

 其他有価証券

 時価のあるもの……決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

 時価のないもの……移動平均法による原価法

たな卸資産

 通常の販売目的で保有するたな卸資産

 評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

 商品…… 主として移動平均法

 原材料及び貯蔵品……主として最終仕入原価法

 製品及び仕掛品…… 主として移動平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

 有形固定資産(リース資産を除く)……車両については定率法、その他の有形固定資産については主として定額法を採用しております。

 取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

 建物及び構築物 3～50年

 機械装置及び運搬具 2～17年

 また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

 無形固定資産(リース資産を除く)……自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、それ以外の無形固定資産については定額法を採用しております。

 リース資産……所有権移転外ファイナンス・リースに係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

 貸倒引当金……売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

 賞与引当金……従業員の賞与支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

 返品調整引当金……返品による損失に備えるため、当連結会計年度末の売上債権残高に当連結会計年度及び前連結会計年度の平均返品率と当連結会計年度の売上総利益率を乗じた額を計上しております。

退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異(403百万円)については、15年による按分額を費用処理しております。数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)にわたりそれぞれ発生の翌連結会計年度から均等償却しております。

役員退職慰労引当金……役員の退職慰労金の支給に備えて内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
非連結子会社株式	32百万円	32百万円
関連会社株式	26	31

2 担保資産及び担保付債務

担保資産

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
預金	2百万円	—百万円
建物	1,925	1,798
土地	3,014	3,014
投資有価証券	562	827
計	5,505	5,640

担保付債務

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
短期借入金	1,818百万円	2,035百万円
長期借入金	600	100
買掛金	2,773	2,815
計	5,191	4,950

3 当社及び連結子会社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行16行(前連結会計年度)、12行(当連結会計年度)と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
当座貸越極度額	10,387百万円	8,917百万円
借入実行残高	3,317	3,487
差引額	7,070	5,430

4 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
商品及び製品	9,918百万円	11,434百万円
原材料及び貯蔵品	68	139
仕掛品	2	13

5 手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
受取手形割引高	43百万円	37百万円

6 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
受取手形	249百万円	209百万円
支払手形	111	182

(連結損益計算書関係)

1 固定資産除却損の主な内訳

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	8百万円	—百万円
その他	0	—

2 減損損失

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

主な内訳は以下のとおりであります。

用途	種類	場所	金額
営業	建物及び構築物	奈良県磯城郡三宅町他	46百万円

(経緯)

上記資産については、継続して損益がマイナスとなっているため、減損損失を認識いたしました。

(グルーピングの方法)

継続して収支を把握している単位でグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、時価を零として算定しております。

当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

重要性が乏しい為、記載を省略しております。

3 固定資産売却益の主な内訳

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
土地売却益	43百万円	—百万円
建物売却益	3	—

4 (前連結会計年度)

このうち、研究開発費は、26百万円であります。

(当連結会計年度)

このうち、研究開発費は、21百万円であります。

5 主として土地に係るものであります。

6 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上原価	335百万円	235百万円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	631百万円	1,555百万円
組替調整額	66	19
税効果調整前	697	1,536
税効果額	159	541
その他有価証券評価差額金	538	994
持分法適用会社に対する 持分相当額		
当期発生額	0	1
その他の包括利益合計	538	995

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,572,100	—	—	12,572,100

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	562,258	5,398	—	567,656

(変動事由の概要)

自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものです。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 5 月11日 取締役会	普通株式	120	10	平成23年 3 月31日	平成23年 6 月20日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 5 月16日 取締役会	普通株式	利益剰余金	120	10	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月19日

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,572,100	—	—	12,572,100

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	567,656	100	—	567,756

(変動事由の概要)

自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものです。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 5 月16日 取締役会	普通株式	120	10	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月19日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年 5 月17日 取締役会	普通株式	利益剰余金	120	10	平成25年 3 月31日	平成25年 6 月19日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金	2,916百万円	1,999百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	61	90
現金及び現金同等物	2,855	1,909

2 事業の譲受により増加した資産及び負債の主な内訳

当連結会計年度に事業の譲受により増加した資産及び負債の主な内訳は以下のとおりであります。

流動資産	401百万円
固定資産	116
資産合計	517
流動負債	69
負債合計	69

[次へ](#)

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	機械装置及び 運搬具 (百万円)	有形固定資産 その他 (工具、器具 及び備品) (百万円)	無形固定資産 (ソフトウェア) (百万円)	合計 (百万円)
取得価額相当額	10	120	91	222
減価償却累計額相当額	8	105	80	195
期末残高相当額	1	15	10	27

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、
「支払利子込み法」により算定しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	機械装置及び 運搬具 (百万円)	有形固定資産 その他 (工具、器具 及び備品) (百万円)	無形固定資産 (ソフトウェア) (百万円)	合計 (百万円)
取得価額相当額	30	3	—	33
減価償却累計額相当額	15	2	—	18
期末残高相当額	14	0	—	14

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、
「支払利子込み法」により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年以内	27百万円	12百万円
1年超	—	2
合計	27	14

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い
ため、「支払利子込み法」により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	43百万円	45百万円
減価償却費相当額	43	45

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

１．ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引(借主側)

(1)リース資産の内容

- ・有形固定資産

主として、物流設備に関するコンピュータ機器（工具、器具及び備品）であります。

- ・無形固定資産

主として、物流設備に関するソフトウェアであります。

(2)リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金の調達を目的としたものであり、返済日は決算日後、最長で5年後であります。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理の手續に従い、営業債権について、営業本部、業務本部、経営企画室が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。主要な連結子会社についても、当社の債権管理手續に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

一部の連結子会社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、連結子会社についても、当社、業務本部においてレビューを行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰り予定を見直しする事で、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

２．金融商品の時価等に関する事項

平成24年３月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（（注２）をご参照下さい。）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額（*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	2,916	2,916	—
(2) 受取手形及び売掛金	30,095	30,095	—
(3) 未収入金	4,321	4,321	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	3,675	3,675	—
(5) 支払手形及び買掛金	(41,393)	(41,393)	—
(6) 短期借入金	(4,369)	(4,369)	—
(7) 長期借入金	(1,904)	(1,879)	24

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注１）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、並びに(3)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照下さい。

(5)支払手形及び買掛金、並びに(6)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

（注２）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	185
関係会社株式	59

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。なお、「非上場株式」については、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	3,317	—	—	—	—	—
長期借入金	1,052	1,133	684	66	20	—
リース債務	94	82	53	25	3	1
合計	4,463	1,216	737	92	23	1

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金の調達を目的としたものであり、返済日は決算日後、最長で5年後であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理の手に従い、営業債権について、営業本部、業務本部、経営企画室が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。主要な連結子会社についても、当社の債権管理手続に準じて、同様の管理を行っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰り予定を見直しする事で、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

２．金融商品の時価等に関する事項

平成25年３月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（（注２）をご参照下さい。）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額（*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	1,999	1,999	—
(2) 受取手形及び売掛金	34,612	34,612	—
(3) 未収入金	4,852	4,852	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	5,318	5,318	—
(5) 支払手形及び買掛金	(47,045)	(47,045)	—
(6) 短期借入金	(4,765)	(4,765)	—
(7) 長期借入金	(1,233)	(1,215)	18

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注１）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、並びに(3)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照下さい。

(5)支払手形及び買掛金、並びに(6)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

（注２）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	185
関係会社株式	63

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。なお、「非上場株式」については、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	3,487	—	—	—	—	—
長期借入金	1,277	857	219	93	62	—
リース債務	86	57	28	5	2	—
合計	4,851	914	248	98	65	—

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成24年 3 月31日)

1 その他有価証券

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	3,508	1,052	2,455
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	167	217	50
合計	3,675	1,270	2,405

減損処理を行った有価証券

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損66百万円を計上しております。

当連結会計年度(平成25年 3 月31日)

1 その他有価証券

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	5,191	1,226	3,965
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	126	146	19
合計	5,318	1,372	3,946

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)
株式	25	19

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

[次へ](#)

(退職給付関係)

前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社 3 社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び厚生年金基金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

・要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成23年 3 月31日現在)

年金資産の額	408,248百万円
年金財政計算上の給付債務の額	454,863
差引額	46,614

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

0.58%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、未償却過去勤務債務残高43,398百万円と前年度からの繰越不足金残高3,215百万円を合計した額であります。

また、未償却過去勤務債務残高の内訳は特別掛金収入現価であり、償却方法は元利均等方式、事業主負担掛金率15.5%、償却残余期間は平成23年 3 月31日現在で 7 年10月であります。

2 退職給付債務に関する事項

イ 未積立退職給付債務	627百万円
ロ 会計基準変更時差異の未処理額	56
ハ 未認識数理計算上の差異	24
ニ 退職給付引当金(イ + ロ + ハ)	546

3 退職給付費用に関する事項

イ 勤務費用	37百万円
ロ 利息費用	8
ハ 会計基準変更時差異の費用処理額	18
ニ 厚生年金基金拠出金	99
ホ 退職給付費用(イ + ロ + ハ + ニ)	163

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	1.2%
(3) 数理計算上の差異の処理年数	12年
(4) 会計基準変更時差異の処理年数	15年

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から均等償却する方法によっております。

当連結会計年度（自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日）

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社 3 社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び厚生年金基金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

・要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成24年 3 月31日現在)

年金資産の額	414,218百万円
年金財政計算上の給付債務の額	459,016
差引額	44,797

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

0.62%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、未償却過去勤務債務残高38,602百万円と前年度からの繰越不足金残高3,215百万円及び当年度不足金2,979百万円を合計した額であります。

また、未償却過去勤務債務残高の内訳は特別掛金収入現価であり、償却方法は元利均等方式、事業主負担掛金率15.5%、償却残余期間は平成24年 3 月31日現在で 6 年10月であります。

2 退職給付債務に関する事項

イ 未積立退職給付債務	688百万円
ロ 会計基準変更時差異の未処理額	37
ハ 未認識数理計算上の差異	48
ニ 退職給付引当金(イ + ロ + ハ)	602

3 退職給付費用に関する事項

イ 勤務費用	37百万円
ロ 利息費用	7
ハ 会計基準変更時差異の費用処理額	18
ニ 数理計算上の差異の費用処理額	2
ホ 厚生年金基金拠出金	107
ヘ 退職給付費用(イ + ロ + ハ + ニ + ホ)	172

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	0.9%
(3) 数理計算上の差異の処理年数	12年
(4) 会計基準変更時差異の処理年数	15年

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から均等償却する方法によっております。

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

該当事項はありません。

[前へ](#) [次へ](#)

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日現在)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日現在)
流動の部		
繰延税金資産		
未払事業所税	4百万円	4百万円
繰越欠損金	184	223
賞与引当金	91	89
未払事業税	31	24
売掛金	20	66
たな卸資産評価損	370	247
未払金	408	376
貸倒引当金	217	287
未実現棚卸資産売却益	40	56
その他	10	—
小計	1,378	1,377
評価性引当金	683	758
繰延税金資産合計	694	619
繰延税金負債		
債権債務消去に伴う 引当金取崩	4	3
商品	—	43
繰延税金負債合計	4	46
繰延税金資産の純額	690	572
固定の部		
繰延税金資産		
会員権評価損	2	2
退職給付引当金	193	213
役員退職慰労引当金	59	55
貸倒引当金	188	234
貸倒損失	1	1
未実現固定資産売却益	25	25
減損損失	178	141
投資有価証券評価損	19	19
その他有価証券評価差額金	0	—
その他	5	16
小計	674	709
評価性引当金	455	470
繰延税金資産合計	219	238
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	563	560
その他有価証券評価差額金	854	1,396
土地(子会社の資産の 評価差額)	4	4
繰延税金負債合計	1,422	1,961
繰延税金負債の純額	1,202	1,722

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前連結会計年度

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日現在)
法定実効税率	40.69%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.47
住民税均等割	2.63
子会社の未認識税務利益	1.05
評価性引当金	4.89
受取配当等永久に益金に算入されない項目	1.38
税率変更による影響額	1.11
その他	0.22
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.92

当連結会計年度

	当連結会計年度 (平成25年 3月31日現在)
法定実効税率	38.01%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.43
住民税均等割	2.56
子会社の未認識税務利益	2.82
評価性引当金	7.41
受取配当等永久に益金に算入されない項目	1.70
修正申告による影響額	0.86
その他	0.18
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.57

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正（前連結会計年度）

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40.69%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.01%、平成27年4月1日以降のものについては35.64%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が132百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が11百万円、その他有価証券評価差額金が121百万円、それぞれ減少しております。

[前へ](#) [次へ](#)

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

相手先企業の名称及び取得した事業の内容

相手先企業の名称：日野ホールディングス株式会社

取得した事業の内容：医薬品等製造・販売業

企業結合を行った主な理由

同社のブランド、製造ノウハウ、商品力等には、今後の市場性の中で潜在価値があると考えられ、
当社グループの商流に取り込むことで、更なる成長が期待されるためであります。

企業結合日

平成24年4月12日

企業結合の法的形式

事業譲受

結合後企業の名称

日野薬品工業株式会社

(2) 連結財務諸表に含まれる取得した事業の業績の期間

平成24年4月12日から平成25年3月31日まで

(3) 取得した事業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	448百万円
取得原価		448百万円

(4) 発生した負ののれん発生益の金額、発生原因

負ののれん発生益の金額

56百万円

発生原因

事業譲受合意金額と対象資産・負債の時価との差額によるものであります。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその内訳

流動資産	401百万円
固定資産	116百万円
資産合計	517百万円
流動負債	69百万円
負債合計	69百万円

(資産除去債務関係)

前連結会計年度（平成24年3月31日）

1 資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上しているもの
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2 1以外の資産除去債務について

当社グループは、一部の物流・店舗設備の不動産賃借契約に基づき、同物件の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転又は退店する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

1 資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上しているもの
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2 1以外の資産除去債務について

当社グループは、一部の物流・店舗設備の不動産賃借契約に基づき、同物件の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転又は退店する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

[前へ](#)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社及び当社の連結子会社は医薬品等の製造・販売を事業内容としており、事業区分が単一セグメントのため、記載しておりません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社及び当社の連結子会社は医薬品等の製造・販売を事業内容としており、事業区分が単一セグメントのため、記載しておりません。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位:百万円)

	外部顧客への売上高
医薬品	71,909
健康食品	18,904
衛生医療・介護・オーラル用品	16,456
ベビー用品	7,580
日用品・軽衣料	8,408
菓子・食品	7,986
化粧品	19,199
その他分類	3,505
合計	153,951

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 提出会社の売上高が連結売上高の大半を占める為、当該金額によっております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位:百万円)

	外部顧客への売上高
医薬品	74,245
健康食品	20,880
衛生医療・介護・オーラル用品	17,591
ベビー用品	7,364
日用品・軽衣料	9,590
菓子・食品	7,224
化粧品	23,550
その他分類	5,261
合計	165,708

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 提出会社の売上高が連結売上高の大半を占める為、当該金額によっております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

当社及び当社の連結子会社は医薬品等の製造・販売を事業内容としており、事業区分が単一セグメントのため、記載しておりません。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

当社及び当社の連結子会社は医薬品等の製造・販売を事業内容としており、事業区分が単一セグメントのため、記載しておりません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

当社及び当社の連結子会社は医薬品等の製造・販売を事業内容としており、事業区分が単一セグメントのため、記載しておりません。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

当社及び当社の連結子会社は医薬品等の製造・販売を事業内容としており、事業区分が単一セグメントのため、記載しておりません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

当社及び当社の連結子会社は医薬品等の製造・販売を事業内容としており、事業区分が単一セグメントのため、記載しておりません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
法人主要株主	ロート製薬(株)	大阪市生野区	6,405	医薬品等製造業	所有 直接 0.08 被所有 直接14.68	同社商品の購入	商品の仕入	24,303	未収入金 買掛金 支払手形	1,493 2,959 6,886
法人主要株主の子会社	(株)メディケアシステムズ	大阪市生野区	90	医薬品等製造業	—	同社商品の購入	商品の仕入	3,863	未収入金 買掛金 支払手形	187 384 927

- (注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
- 2 取引条件及び取引条件の決定方針等
上記の仕入取引における価格設定は、一般的な市場価格を基に決定しております。
また、仕入割戻し等については、取引数量、金額、品目等を考慮して条件を決定しております。
- 3 ロート製薬(株)に対して、土地及び建物620百万円を仕入債務に対する担保として差入れております。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
法人主要株主	ロート製薬(株)	大阪市生野区	6,408	医薬品等製造業	所有 直接 0.09 被所有 直接14.68	同社商品の購入	商品の仕入	28,851	未収入金 買掛金 支払手形	2,078 5,181 7,348

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	松井秀夫	—	—	当社代表取締役	被所有 直接 2.97	—	子会社株式の売却	16	—	—

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	松井秀夫	—	—	当社代表取締役	被所有 直接 2.97	—	子会社の増資の引受	16	—	—

- (注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
- 2 取引条件及び取引条件の決定方針等
上記の仕入取引における価格設定は、他社との取引条件を踏まえて決定しております。
また、仕入割戻し等については、取引数量、金額、品目等を考慮して条件を決定しております。

上記の松井秀夫との取引価額については、各会社の財政状態を踏まえて決定しており、(1) (イ) の支払条件は、一括現金払いとなっております。

- 3 ロート製薬㈱に対して、土地及び建物620百万円を仕入債務に対する担保として差入れております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり純資産額並びに 1 株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)		当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	
1 株当たり純資産額	636.87円	1 株当たり純資産額	760.80円

前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
1 株当たり当期純利益金額	47.01円	1 株当たり当期純利益金額	51.04円
なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
算定上の基礎		算定上の基礎	
連結損益計算書上の当期純利益	564百万円	連結損益計算書上の当期純利益	612百万円
普通株式に係る当期純利益	564百万円	普通株式に係る当期純利益	612百万円
普通株主に帰属しない金額	該当事項はありません。	普通株主に帰属しない金額	該当事項はありません。
普通株式の期中平均株式数	12,006,983株	普通株式の期中平均株式数	12,004,383株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	3,317	3,487	0.9	—
1年以内に返済予定の長期借入金	1,052	1,277	1.1	—
1年以内に返済予定のリース債務	94	86	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,904	1,233	1.1	平成26年～29年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	166	94	—	平成26年～29年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	6,535	6,179	—	—

- (注) 1 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
2 リース債務に係る平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	857	219	93	62
リース債務	57	28	5	2

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	40,973	83,784	126,829	168,102
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	234	397	921	1,326
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	129	136	467	612
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	10.80	11.40	38.92	51.04

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	10.80	0.60	27.52	12.12

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 1,281	465
受取手形	5 798	5 932
売掛金	2 30,440	2 34,661
商品	8,663	10,175
前渡金	4	6
前払費用	2 49	2 47
繰延税金資産	626	523
未収入金	2 4,198	2 4,700
立替金	0	-
その他	2 571	2 509
貸倒引当金	649	854
流動資産合計	45,985	51,168
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 3,425	1 3,425
減価償却累計額	1,931	2,032
建物（純額）	1,493	1,393
構築物	152	157
減価償却累計額	86	93
構築物（純額）	65	64
機械及び装置	37	37
減価償却累計額	30	33
機械及び装置（純額）	6	4
工具、器具及び備品	211	259
減価償却累計額	192	203
工具、器具及び備品（純額）	18	55
土地	1 2,944	1 3,015
リース資産	305	309
減価償却累計額	147	206
リース資産（純額）	157	103
建設仮勘定	51	357
有形固定資産合計	4,737	4,994
無形固定資産		
のれん	10	-
ソフトウェア	38	54
電話加入権	14	14
リース資産	87	57
その他	0	63

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
無形固定資産合計	150	190
投資その他の資産		
投資有価証券	1 3,751	1 5,344
関係会社株式	419	445
関係会社出資金	0	0
出資金	32	4
関係会社長期貸付金	908	733
破産更生債権等	413	401
差入保証金	1,302	1,447
その他	109	115
貸倒引当金	501	621
投資その他の資産合計	6,436	7,871
固定資産合計	11,325	13,056
資産合計	57,310	64,224
負債の部		
流動負債		
支払手形	5 8,821	5 8,482
買掛金	1 32,201	1 38,011
短期借入金	1 2,320	1 2,620
1年内返済予定の長期借入金	1 723	1 933
リース債務	92	82
未払金	1,360	1,481
未払費用	1	-
未払法人税等	262	244
未払消費税等	52	20
預り金	32	35
賞与引当金	182	182
返品調整引当金	93	109
その他	169	164
流動負債合計	46,315	52,366
固定負債		
長期借入金	1 1,450	516
リース債務	164	86
繰延税金負債	1,201	1,705
退職給付引当金	521	573
役員退職慰労引当金	123	136
その他	38	32
固定負債合計	3,498	3,051
負債合計	49,814	55,418

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,751	1,751
資本剰余金		
資本準備金	1,475	1,475
その他資本剰余金	11	11
資本剰余金合計	1,486	1,486
利益剰余金		
利益準備金	137	137
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	977	973
別途積立金	454	454
繰越利益剰余金	1,412	1,760
利益剰余金合計	2,980	3,324
自己株式	261	261
株主資本合計	5,956	6,301
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,539	2,504
評価・換算差額等合計	1,539	2,504
純資産合計	7,496	8,805
負債純資産合計	57,310	64,224

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高	153,951	165,708
売上原価		
商品期首たな卸高	8,832	8,663
当期商品仕入高	140,469	152,294
合計	149,301	160,958
商品他勘定振替高	1 6	1 9
商品期末たな卸高	6 8,663	6 10,175
売上原価合計	140,631	150,773
売上総利益	13,319	14,934
返品調整引当金戻入額	80	93
返品調整引当金繰入額	93	109
差引売上総利益	13,306	14,918
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	1,815	2,017
車両費	107	114
販売費	6,841	7,601
給料手当及び賞与	2,316	2,458
賞与引当金繰入額	182	182
退職給付費用	139	147
役員退職慰労引当金繰入額	12	13
福利厚生費	262	290
減価償却費	222	220
貸倒引当金繰入額	94	382
その他	1,063	1,095
販売費及び一般管理費合計	13,058	14,526
営業利益	248	392
営業外収益		
受取利息	3 35	3 36
受取配当金	3 94	3 99
仕入割引	3 281	3 243
情報手数料	2, 3 205	2, 3 221
受取家賃	3 36	3 28
貸倒引当金戻入額	-	3 45
その他	3 126	3 131
営業外収益合計	779	807

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
営業外費用		
支払利息	74	57
売上債権売却損	54	52
貸倒引当金繰入額	3 28	-
その他	11	14
営業外費用合計	169	125
経常利益	858	1,074
特別利益		
固定資産売却益	5 46	-
投資有価証券売却益	-	19
その他	0	-
特別利益合計	47	19
特別損失		
固定資産除却損	4 2	-
固定資産売却損	5 58	-
出資金評価損	-	27
投資有価証券評価損	66	-
その他	1	-
特別損失合計	128	27
税引前当期純利益	776	1,066
法人税、住民税及び事業税	566	519
法人税等調整額	166	82
法人税等合計	400	601
当期純利益	376	464

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,751	1,751
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,751	1,751
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,475	1,475
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,475	1,475
その他資本剰余金		
当期首残高	11	11
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	11	11
資本剰余金合計		
当期首残高	1,486	1,486
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,486	1,486
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	137	137
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	137	137
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	922	977
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	78	-
固定資産圧縮積立金の取崩	23	3
当期変動額合計	55	3
当期末残高	977	973
別途積立金		
当期首残高	454	454
当期変動額		
当期変動額合計	-	-

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
当期末残高	454	454
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,211	1,412
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	78	-
固定資産圧縮積立金の取崩	23	3
剰余金の配当	120	120
当期純利益	376	464
当期変動額合計	200	348
当期末残高	1,412	1,760
利益剰余金合計		
当期首残高	2,724	2,980
当期変動額		
剰余金の配当	120	120
当期純利益	376	464
当期変動額合計	256	344
当期末残高	2,980	3,324
自己株式		
当期首残高	259	261
当期変動額		
自己株式の取得	2	0
当期変動額合計	2	0
当期末残高	261	261
株主資本合計		
当期首残高	5,703	5,956
当期変動額		
剰余金の配当	120	120
当期純利益	376	464
自己株式の取得	2	0
当期変動額合計	253	344
当期末残高	5,956	6,301

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,012	1,539
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	526	965
当期変動額合計	526	965
当期末残高	1,539	2,504
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,012	1,539
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	526	965
当期変動額合計	526	965
当期末残高	1,539	2,504
純資産合計		
当期首残高	6,715	7,496
当期変動額		
剰余金の配当	120	120
当期純利益	376	464
自己株式の取得	2	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	526	965
当期変動額合計	780	1,309
当期末残高	7,496	8,805

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

商品

移動平均法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

構築物 10～40年

機械及び装置 7～17年

工具、器具及び備品 3～20年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、それ以外の無形固定資産については定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

(3) 返品調整引当金

返品による損失に備えるため、当事業年度末の売上債権残高に当事業年度及び前事業年度の平均返品率と当事業年度の売上総利益率を乗じた額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異(403百万円)については、15年による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による按分額をそれぞれ発生翌期より均等償却しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

6 のれんの償却方法及び償却期間

のれんは5年間で均等償却しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保資産

	第130期 (平成24年 3月31日現在)	第131期 (平成25年 3月31日現在)
預金	2百万円	—百万円
建物	1,246	1,159
土地	2,620	2,620
投資有価証券	560	825
計	4,429	4,604

担保付債務

	第130期 (平成24年 3月31日)	第131期 (平成25年 3月31日)
短期借入金	1,340百万円	1,480百万円
1年以内返済予定長期借入金	190	400
長期借入金	500	—
買掛金	2,771	2,813
計	4,801	4,693

2 関係会社に対する債権・債務

	第130期 (平成24年 3月31日現在)	第131期 (平成25年 3月31日現在)
売掛金	4,465百万円	4,542百万円
その他	555	553

3 保証債務

下記子会社の債務について保証を行っております。

	第130期 (平成24年 3月31日現在)	第131期 (平成25年 3月31日現在)
(株)奈良ドラッグ (金融機関からの借入及び仕入債務)	128百万円	98百万円
(株)健翔大木(金融機関からの借入)	30	—
計	158	98

4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行10行(前事業年度)、10行(当事業年度)と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	第130期 (平成24年 3月31日現在)	第131期 (平成25年 3月31日現在)
当座貸越極度額	8,270百万円	8,050百万円
借入実行残高	2,320	2,620
差引額	5,950	5,430

5 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	第130期 (平成24年 3月31日現在)	第131期 (平成25年 3月31日現在)
受取手形	199百万円	166百万円
支払手形	80	100

(損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費への振替であります。
- 2 業界の市場関係情報の提供料収入であります。
- 3 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	第130期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	第131期 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
(営業外収益)		
受取利息	21百万円	18百万円
受取配当金	18	18
仕入割引	11	24
情報手数料	0	0
受取家賃	9	9
貸倒引当金戻入額	—	45
その他	12	1
(営業外費用)		
貸倒引当金繰入額	28	—

- 4 主として建物に係るものであります。
- 5 主として土地に係るものであります。
- 6 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	第130期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	第131期 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上原価	153百万円	208百万円

(株主資本等変動計算書関係)

第130期(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	562,258	5,398	—	567,656

(変動事由の概要)

自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

第131期(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	567,656	100	—	567,756

(変動事由の概要)

自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

[次へ](#)

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

第130期(平成24年3月31日)

	工具、器具及び備品 (百万円)	ソフトウェア (百万円)	合計 (百万円)
取得価額相当額	120	86	207
減価償却累計額相当額	105	77	182
期末残高相当額	15	9	24

(注) 取得価額相当額は未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、「支払利子込み法」により算定しております。

第131期(平成25年3月31日)

	工具、器具及び備品 (百万円)	ソフトウェア (百万円)	合計 (百万円)
取得価額相当額	—	—	—
減価償却累計額相当額	—	—	—
期末残高相当額	—	—	—

(注) 取得価額相当額は未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、「支払利子込み法」により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額

	第130期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第131期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1年以内	24百万円	—百万円
1年超	—	—
合計	24	—

(注) 未経過リース料期末残高相当額は未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、「支払利子込み法」により算定しております。

支払リース料及び減価償却費相当額

	第130期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第131期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	39百万円	24百万円
減価償却費相当額	39	24

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引(借主側)

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、物流設備に関するコンピュータ機器(工具、器具及び備品)であります。

・無形固定資産

主として、物流設備に関するソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(有価証券関係)

第130期(平成24年 3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	379
(2) 関連会社株式	40
計	419

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

第131期(平成25年 3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	405
(2) 関連会社株式	39
計	445

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第130期 (平成24年 3 月31日現在)	第131期 (平成25年 3 月31日現在)
繰延税金資産		
未払事業所税	4百万円	4百万円
未払事業税	22	22
賞与引当金	69	69
会員権評価損	2	2
退職給付引当金	188	206
貸倒引当金	393	509
役員退職慰労引当金	43	48
たな卸資産評価損	122	43
貸倒損失	1	1
出資金評価損	—	9
関係会社出資金評価損	28	28
投資有価証券評価損	19	19
減損損失	78	78
子会社株式評価損	40	40
未払金（その他）	387	352
商品	—	64
その他	20	0
小計	1,422	1,501
評価性引当金	608	728
繰延税金資産合計	814	773
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	541	539
其他有価証券	847	1,372
評価差額金	—	43
商品	—	—
繰延税金負債合計	1,389	1,955
繰延税金負債（ ）の純額	574	1,182

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第130期 (平成24年3月31日現在)	第131期 (平成25年3月31日現在)
法定実効税率 (調整)	40.69%	38.01%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	3.12	2.64
住民税均等割	3.34	2.93
評価性引当金	8.74	13.40
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	2.87	2.06
修正申告による影響額	—	1.67
税率変更による影響額	1.02	—
その他	0.43	0.14
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	51.57	56.45

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正（第130期）

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する

法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.69%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.01%、平成27年4月1日以降のものについては35.64%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が128百万円、当事業年度に計上された法人税等調整額が7百万円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が120百万円増加しております。

[次へ](#)

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(平成24年3月31日)

- 1 資産除去債務のうち、貸借対照表に計上しているもの
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

- 2 1以外の資産除去債務について

当社は、一部の物流設備の不動産賃借契約に基づき、同物件の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当事業年度(平成25年3月31日)

- 1 資産除去債務のうち、貸借対照表に計上しているもの
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

- 2 1以外の資産除去債務について

当社は、一部の物流設備の不動産賃借契約に基づき、同物件の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり純資産額並びに 1 株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

第130期 (平成24年 3 月31日)		第131期 (平成25年 3 月31日)	
1 株当たり純資産額	624.46円	1 株当たり純資産額	733.56円

第130期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		第131期 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
1 株当たり当期純利益金額	31.34円	1 株当たり当期純利益金額	38.68円
なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
算定上の基礎		算定上の基礎	
損益計算書上の当期純利益	376百万円	損益計算書上の当期純利益	464百万円
普通株式に係る当期純利益	376百万円	普通株式に係る当期純利益	464百万円
普通株主に帰属しない金額	該当事項はありません。	普通株主に帰属しない金額	該当事項はありません。
普通株式の期中平均株式数	12,006,983株	普通株式の期中平均株式数	12,004,383株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

[前へ](#)

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄			株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	大塚ホールディングス(株)	832,000	2,745
		東邦ホールディングス(株)	372,000	809
		久光製薬(株)	77,228	396
		ケンコーコム(株)	730	270
		ロート製薬(株)	108,308	139
		(株)ツムラ	32,959	114
		(株)エス・ブイ・デー	1,845	92
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	124,000	69
		(株)レデイ薬局	132,459	61
		明治ホールディングス(株)	11,373	49
		インターナショナルヘルスサービス(株)	874	43
		不二ラテックス(株)	275,000	41
		(株)みずほフィナンシャルグループ	204,130	40
		(株)クリエイトSDホールディングス	10,112	37
		川本産業(株)	79,300	37
		(株)セブン＆アイ・ホールディングス	10,905	33
		武田薬品工業(株)	6,652	33
		(株)シード	32,000	32
		(株)フジ	18,213	32
		(株)エーアイピー	6	30
		(株)ドン・キホーテ	6,000	25
		小林製薬(株)	5,399	24
		(株)キリン堂	34,399	23
		三井住友トラスト・ホールディングス(株)	48,000	21
		その他(27銘柄)	200,671	138
		計		

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	3,425	0	—	3,425	2,032	100	1,393
構築物	152	4	—	157	93	6	64
機械及び装置	37	—	—	37	33	2	4
工具、器具及び備品	211	48	0	259	203	11	55
土地	2,944	70	—	3,015	—	—	3,015
リース資産	305	4	—	309	206	58	103
建設仮勘定	51	306	—	357	—	—	357
有形固定資産計	7,128	434	0	7,562	2,568	178	4,994
無形固定資産							
ソフトウェア	—	—	—	118	64	15	54
電話加入権	—	—	—	14	—	—	14
リース資産	—	—	—	146	88	29	57
その他	—	—	—	65	1	10	63
無形固定資産計	—	—	—	345	154	54	190
長期前払費用	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1,150	509	12	171	1,475
賞与引当金	182	182	182	—	182
返品調整引当金	93	109	—	93	109
役員退職慰労引当金	123	13	—	—	136

(注) 1 貸倒引当金の当期減少額のうち「その他」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額並びに個別債権に係る回収額であります。

2 返品調整引当金の当期減少額の「その他」は、当期首残高の洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

(イ)流動資産

A 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	62
預金	
当座預金	365
普通預金	36
外貨普通預金	0
小計	402
合計	465

B 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)千葉薬品	250
白石薬品(株)	115
マルモ薬品(株)	113
(株)アカカベ	107
(株)杏林堂薬局	95
その他	251
合計	932

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成25年3月満期	166
" 4月満期	311
" 5月満期	226
" 6月満期	155
" 7月以降満期	72
合計	932

C 売掛金
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)健翔大木	3,652
(株)ツルハ	3,374
(株)クリエイトＳＤ	1,818
(株)キリン堂	1,534
(株)ダイコク	1,439
その他	22,842
合計	34,661

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	回転率(回)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(B)}{((A) + (D)) \div 2}$	$\frac{365}{\text{回転率}}$
30,440	173,997	169,777	34,661	83.05	5.345	68.28

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等が含まれております。

D 商品

区分	金額(百万円)
医薬品	4,039
健康食品	1,141
化粧品	2,115
その他	2,879
合計	10,175

E 未収入金

区分	金額(百万円)
仕入割戻金	1,525
特別価格申請割戻金	2,810
特別仕入割戻金	195
その他	169
合計	4,700

(口)流動負債

A 支払手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
ロート製薬(株)	7,348
皇漢堂薬品(株)	482
(株)ジュリアコーポレーション	143
ダンヘルスケア(株)	104
マイクロウェーバー(株)	66
その他	337
合計	8,482

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成25年3月満期	100
〃 4月満期	2,842
〃 5月満期	2,343
〃 6月満期	3,011
〃 7月満期	118
〃 8月満期	33
〃 9月満期	33
合計	8,482

B 買掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
ロート製薬(株)	5,181
三菱UFJファクター(株)	3,188
久光製薬(株)	2,693
武田薬品工業(株)	2,338
オールジャパンドラッグ(株)	1,653
その他	22,956
合計	38,011

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載してこれを行う。 公告掲載URL http://www.ohki-net.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

- | | | | | |
|-----|---|-----------------|-----------------------------------|----------------------------|
| (1) | 有価証券報告書
及びその添付書類、
有価証券報告書の
確認書 | 事業年度
(第130期) | 自 平成23年 4 月 1 日
至 平成24年 3 月31日 | 平成24年 6 月18日
関東財務局長に提出。 |
|-----|---|-----------------|-----------------------------------|----------------------------|
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成24年 6 月18日関東財務局長に提出。
- (3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書
第131期第 1 四半期（自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日）
平成24年 8 月 1 日関東財務局長に提出。
第131期第 2 四半期（自 平成24年 7 月 1 日 至 平成24年 9 月30日）
平成24年11月 6 日関東財務局長に提出。
第131期第 3 四半期（自 平成24年10月 1 日 至 平成24年12月31日）
平成25年 2 月 1 日関東財務局長に提出。
- (4) 臨時報告書
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2（株主総会における議決権行使の結果）の
規定に基づく臨時報告書
平成24年 6 月19日関東財務局長に提出。
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2（株主総会における議決権行使の結果）の
規定に基づく臨時報告書
平成25年 6 月19日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6 月28日

株式会社大木
取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 木 智 博

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 哲

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大木の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大木及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社大木の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社大木が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 6 月28日

株式会社大木
取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 木 智 博

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 哲

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大木の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第131期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大木の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
 - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。